

いよいよ国際会議まであと2カ月余りとなりました。間もなく講演プログラムが公開されます。

今回の火山都市国際会議の豆知識では、学術会議（シンポジウム）での発表・討論のテーマの二つ目「火山と都市」の紹介です。

火山めぐりは、日本の反対側の火山国・アイスランドの火山の紹介です。

火山都市国際会議では、世界各国からの研究者や防災関係者が集まり、三つのテーマに分れて研究論文発表や討論を行います。今回は二つ目のシンポジウムテーマである「火山と都市」を紹介します。このシンポジウムはさらに四つの分科会に分れます。一つ目は「自然災害へどう対処するか：噴火の歴史と教訓から学ぶ」です。

この分科会では、大規模自然災害を研究する科学者や、自治体などの防災関係者、報道機関が集まり、過去の実例や類似の災害事例を検討して、火山噴火の予知情報にどう備えるのか、あるいは実際に火山が噴火したときなどのように対応するのかについて発表や議論をします。火山噴火警戒レベルの設定や、その住民への伝達手段としての報道機関の役割も議論されます。二つ目は「長期的な火山災害とリスクの評価」です。阿蘇カルデラができるような巨大な火山噴火の発生頻度はとても低いものですが、絶対無いつきではありません。もしこのような噴火が現代に発生すると、地域社会のみならず、世界的に大きな影響が及びます。このような大噴火による災害・リスクを科学的に捉えるのがこの分科会のテーマです。三つ目は「火山活動の基幹施設への影響と効果的な減災対策」です。災害はどのような対策をとっても防ぎきれぬものではないかもしれませんが、そこでいかに被害を少なくするかという「減災」対策が重要になってきています。

松島健博さんと行く

世界の火山めぐり

(11)アイスランドの活火山

アイスランドは北大西洋に浮かぶ絶海の孤島です。大西洋の中央を南北に巨大な海底山脈（海嶺）が横断しており、アイスランドはその海底山脈の一部がたまたま海上に顔を出した島です。

この海底山脈は活発な海底火山の列からなっており、常に新しいマグマが地下からわき出て、一年に数センチの速さで東西に新しいプレートを作っています。実はこの新しいプレート（北米プレートとユーラシアプレート）が延々と東西に旅をして、地球の反対側で衝突しているのが日本列島です。

アイスランドは中央を海嶺が縦断し、たくさんの火山が活動しています。寒冷地であるため、氷河も多く氷河の下で噴火が起こり、氷を溶かして大洪水を起すこともあります。

一九七三年のハイマイ島での噴火では、多量の粘性の高い溶岩が町の家を一軒一軒飲み込んでいきました。人々は消防ポンプで溶岩に多量の海水をかけて冷却する作業を行いました。

ました。しかし、実はこのちっつけな作戦が大成功を収め、溶岩の動きを止めることができました。人類が溶岩流をコントロールできた初めての例と言えます。

来年夏には、火山都市国際会議の上位機関である、IAVCEI（国際火山学地球内部化学協会）の学術大会がアイスランドで開催されることが決まっています。

（執筆：松島健九州大学地震火山観測研究センター准教授・理学博士）



↑溶岩流のコントロールに成功したアイスランド